

CASBEE-建築(新築)2016年版
 新築建築工事株式会社 建築工事 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					2.5
Q1 室内環境			0.30		2.6
1 音環境		3.0	0.15		3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		
1.2 遮音		3.0	0.40		
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					
1.3 吸音		3.0	0.20		
2 温熱環境		1.7	0.35		1.7
2.1 室温制御		1.0	0.63		
1 室温					
2 外皮性能		1.0	1.00		
3 ゾーン別制御性					
2.2 湿度制御					
2.3 空調方式		3.0	0.38		
3 光・視環境		2.7	0.25		2.7
3.1 屋光利用		3.0	0.30		
1 屋光率					
2 方位別開口					
3 屋光利用設備		3.0	1.00		
3.2 グレア対策		2.0	0.30		
1 屋光制御		2.0	1.00		
3.3 照度		3.0	0.15		
3.4 照明制御		3.0	0.25		
4 空気質環境		3.7	0.25		3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.30		
1 換気量		3.0	0.50		
2 自然換気性能					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50		
4.3 運用管理		4.0	0.20		
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		
2 喫煙の制御	建物全体は禁煙	5.0	0.50		
Q2 サービス性能			0.30		3.0
1 機能性		2.5	0.40		2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		
1 広さ・収納性					
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00		
3 バリアフリー計画					
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30		
1 広さ感・景観					
2 リフレッシュスペース					
3 内装計画		1.0	1.00		
1.3 維持管理		3.5	0.30		
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計において、該当する項目が標準以上	4.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ALCパネル 30年以上	5.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		
2.4 信頼性		2.5	0.20		
1 空調・換気設備		3.0	0.25		
2 給排水・衛生設備		2.0	0.25		
3 電気設備		3.0	0.25		
4 機械・配管支持方法					
5 通信・情報設備		2.0	0.25		

3	対応性・更新性		3.6	0.30	-	3.6
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.05<0.1	5.0	0.40	-	-
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	2.0
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性					3.7
LR1	エネルギー			0.40		4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		3.0	0.13	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEIm:0.11	5.0	0.63	-	5.0
4	効率的運用		2.0	0.25	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-
	4.2 運用管理体制		1.0	0.50	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-
	4.1 モニタリング		-	-	-	-
	4.2 運用管理体制		-	-	-	-
LR2	資源・マテリアル			0.30		3.4
1	水資源保護		3.4	0.20	-	3.4
	1.1 節水	節水コマ・少水型機器を採用	4.0	0.40	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	3.1
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS	4.0	0.22	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.4	0.20	-	4.4
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避		5.0	0.70	-	-
	1 消火剤		-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材を使用している	5.0	1.00	-	-
	3 冷媒		-	-	-	-
LR3	敷地外環境			0.30		3.8
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率:56%	4.7	0.33	-	4.7
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	ガス工事なし	5.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
	3 交通負荷抑制	適切な量の自転車置場・駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
	1 騒音		3.0	0.33	-	-
	2 振動		3.0	0.33	-	-
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-
	2 砂塵の抑制		-	-	-	-
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	【光害チェックリスト】「広告物照明」配慮事項の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2: サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	-	○	○	○	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3: 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1: エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2: 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3: 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0	-	1.0	-	3.0	3.0	1.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に照れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		Q1 室内環境													
2.1.3 外皮性能		窓システムASC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 昼光率 0.0% 自然換気有効開口面積率 0.0%													
3.1.1 昼光率		執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡ コンセント容量 0.0 VA/㎡ 天井高 0 m リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0% 想定耐用年数 0 年 想定必要間隔 30 年 想定必要間隔 0 年 想定必要間隔 0 年 階高 9.8 m 壁長さ比率 5.0% 床荷重 - N/m2													
4.2.2 自然換気性能		外構緑化指数 #DIV/0! 建物緑化指数 0% 空地率 75% 水平投影面積率 6% 地表面対策面積率 29% 舗装面積率 0%													
Q2 サービス性能		BPI/BPIm - 断熱性能等級 0 相当 自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% BPI/BPIm 非住宅 0.30 住宅 - 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW													
1.1.1 広さ・収納性		雨水利用率 0.0% 特定調達品目 再生クラッシュラン エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 - 使用比率 0.0%													
1.1.2 高度情報通信設備対応		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP) オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP) オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)													
1.2.1 広さ感・景観		見付面積比 14% 階換間隔指標Rw - 地表面対策面積率 29.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 837㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 182 m 基準高さHb 36.67 m 緑地 4,996㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡													
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用															
3 設備システムの高効率化															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															